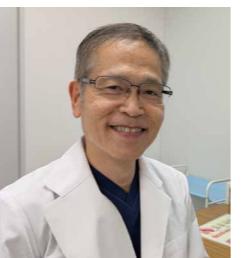




保健会館クリニックの医師がお答えします!

第14回 子宮がん精密検査センター

子宮がん検診や人間ドックで「要精密検査」と判定されると、どのような検査を受けることになるのでしょうか。「子宮がん精密検査センター」で実際に行われる検査とその後の流れ、さらには子宮頸がんとHPVとの関係など、子宮頸がんの精密検査について、本会クリニック婦人科外来を担当する本会検査研究センターセンター長の藤井多久磨医師が詳しく解説します。



〔執筆者〕

藤井 多久磨
ふじい たくま

本会検査研究センター センター長

1987年慶應義塾大学医学部卒業、1991年国立がんセンター研究所リサーチアソシエート、1996年米国エール大学リサーチアソシエート、2005年慶應義塾大学医学部産婦人科専任講師、2013年藤田医科大学医学部産婦人科学講座教授、2014年同副院長、2023年より同医学部産婦人科学講座教授・副院長。2025年4月本会検査研究センターセンター長に就任。

図1

子宮がん精密検査センターではどんな方を診ていますか

Q1 子宮がん精密検査センターではどんな方を診ていますか

市區町村の子宮がん検診や人間ドックで「要精密検査」と言わされた方が主に受診されます。また、東京都産婦人科医会に所属するクリニックや病院の先生方からご紹介いただき来院される方も多くいらっしゃいます。

初診時には必要な検査を行い、治療が不要と判断された場合は数カ月後に再検査を行って経過を見守ります。異常がある場合、すぐに治療が必要とは限りません。まずは正確に診断を行い、安心していただくことを大切にしています。

Q2 検査後はどのような流れになりますか

子宮頸がんの検診で異常を指摘された場合には、いくつかの検査を組み合わせて詳しく調べます（図1）。まず、「ASC-US（アスカス）」という判定は、細胞に軽い変化があるものの、がんなどの関係がつきりしない状態を意味します。この場合には、ヒトパピローマウイルス（HPV）の検査を行います。HPVは子宮頸がんの原因となるウイルスで、多くの女性が一生のうちに一度は感染するといわれています。HPV検査が陽性（感染あり）の場合には、「コルポスコビー下狙い組織診」へ直接コルポスコビー下狙い組織診へ組織診が軽度異形成ならば6ヶ月ごとの経過観察へ組織診が「高度異形成・上皮内がん・浸潤がん」→治療方針の決定

「組織診」という詳しい検査を行います。陰性（感染なし）の場合は、がんの心配はほとんどないため、1年後の再検査をおすすめしています。

ASC-US以外の細胞診異常の判定では、次の3つの検査を行います。

1. 細胞診：子宮頸部から細胞を採取し、顕微鏡で異常細胞の有無を調べます。

2. コルポスコピー：拡大鏡を使って子宮頸部や膣の表面を詳しく観察します（図2）。

3. 組織診：異常が疑われる部分を小さく採取し、病理検査で詳しく調べます。

このうち、コルポスコピーと組織診を合わせて「コルポスコビー下狙い組織診」と呼びます。

検査では内診台で細胞を採取した後、コルポスコープという拡大鏡で子宮頸部の状態を観察します。必要に応じて写真を撮り、酢酸（お酢）を塗つて粘膜の反応を確認し、異常が疑われる部分を小さなさみで1～数カ所採取します。採取後には少量の出血があるため、止血剤やガーゼで処置を行います。ガーゼはご自身で後ほど抜いていただきます。

検査自体は数分で終わります。多くの方が「思っていたより痛くなかった」と話されます。検査後には医師が「思っていたより痛くなかった」と話します。検査後には医

Q3 HPV感染と子宮頸がんの関係を教えてください

子宮頸部の異常の多くは、HPV感染をきっかけに起こります。女性の50～80%は一生のうちに一度はHPVに感染するといわれており、特別な行動をしなくても感染することのある、「一般的なウイルスです」。

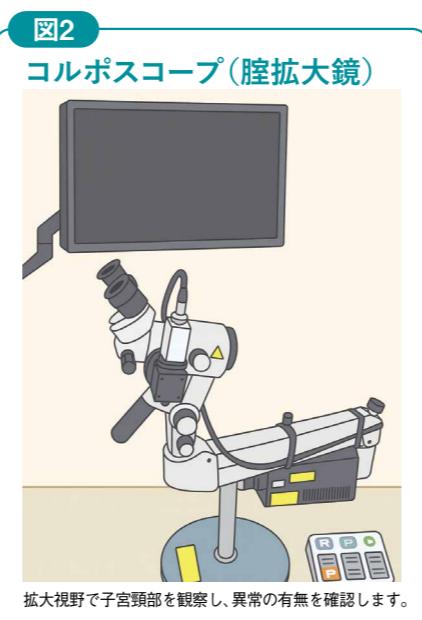
しかし、感染したからといって必ずがんになるわけではありません。日本人女性が一生のうちに子宮頸がんを発症する確率はおよそ1%といわれており、ほとんどの場合はからだの免疫力によって自然にウイルスが排除されます。

検診で異常がみつかったということは、「将来的にがんになるリスクが少し高い状態かもしれない」と示しています。そのため、定期的に経過を観察し、がん化の兆候が見

Q4 検査を受ける時の注意点を教えてください

検査は月経中を避けて予約してください。経血にはさまざまな細胞が混じっており、正しい判定が難しくなることがあります。また、出血が多いと観察が妨げられ、正確な診断ができない場合もあります。

検査に適した時期は、月経が始まつてから10～20日目が目安です。予定が不安定な方は、予約時にご相談ください。



読者へのメッセージ

検診で「異常あり」と言われると不安に感じるかもしれません。それは「がんを早期に発見できるチャンスを得た」ということでもあります。異常を放置したり、精密検査を受けずにいると、後で後悔する結果になることもあります。

しかし、定期的な検診と経過観察によって、がんになる前に異常を見し、治療することができます。自分からだを守るために、ぜひ検診を継続し、異常を指摘された時は専門の外来で確認を続けてください。